

平成22年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000 標本 ◆標本抽出 住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成22年10月29日(金)～11月17日(水) ◆有効回収数 1,580 標本 ◆有効回収率 52.7% 		
調査項目	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1 定住状況について 2 生活環境の評価について 3 関心ごとと行動範囲について 4 市政に対する評価と要望について 5 川崎市ホームページからの情報提供について </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 6 地域福祉について 7 住宅防火対策について 8 市職員に対する市民意識について 9 自転車対策について </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> 1 定住状況について 2 生活環境の評価について 3 関心ごとと行動範囲について 4 市政に対する評価と要望について 5 川崎市ホームページからの情報提供について 	<ul style="list-style-type: none"> 6 地域福祉について 7 住宅防火対策について 8 市職員に対する市民意識について 9 自転車対策について
<ul style="list-style-type: none"> 1 定住状況について 2 生活環境の評価について 3 関心ごとと行動範囲について 4 市政に対する評価と要望について 5 川崎市ホームページからの情報提供について 	<ul style="list-style-type: none"> 6 地域福祉について 7 住宅防火対策について 8 市職員に対する市民意識について 9 自転車対策について 			

※ 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	641	40.6
2 女性	871	55.1
(無回答)	68	4.3
合計	1,580	100.0

2 居住区別

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	237	15.0
2 幸区	170	10.8
3 中原区	258	16.3
4 高津区	231	14.6
5 宮前区	261	16.5
6 多摩区	222	14.1
7 麻生区	189	12.0
(無回答)	12	0.8
合計	1,580	100.0

3 性/年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)
1 20歳代	179	11.3	76	11.9	103	11.8	0	0.0
2 30歳代	329	20.8	126	19.7	203	23.3	0	0.0
3 40歳代	290	18.4	126	19.7	164	18.8	0	0.0
4 50歳代	214	13.5	89	13.9	124	14.2	1	1.5
5 60歳代	292	18.5	127	19.8	164	18.8	1	1.5
6 70歳以上	206	13.0	94	14.7	110	12.6	2	2.9
(無回答)	70	4.4	3	0.5	3	0.3	64	94.1
合計	1,580	100.0	641	100.0	871	100.0	68	100.0

1 定住状況について

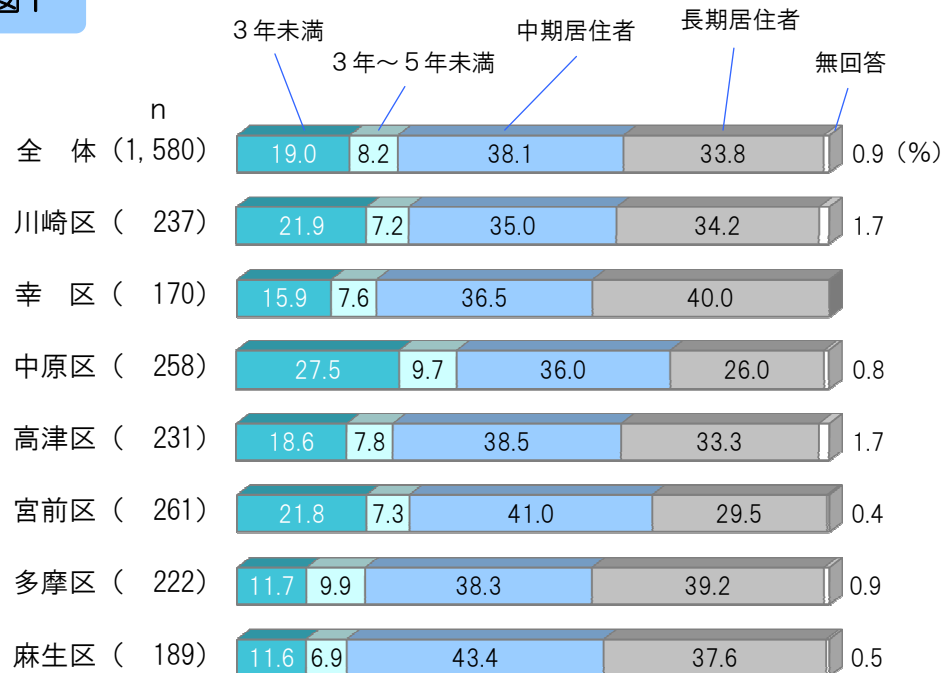
1 居住年数

居住年数を聞いた。居住区別でみると、〈長期居住者^{※1}〉は、幸区（40.0%）が4割と最も高くなっている。〈中期居住者^{※2}〉は麻生区（43.4%）で4割半ば、宮前区（41.0%）で4割を超えている。一方、「3年未満」は中原区（27.5%）で2割半ば、川崎区（21.9%）で2割を超えている。

※1 長期居住者：居住年数が20年以上

※2 中期居住者：居住年数が5年以上～20年未満

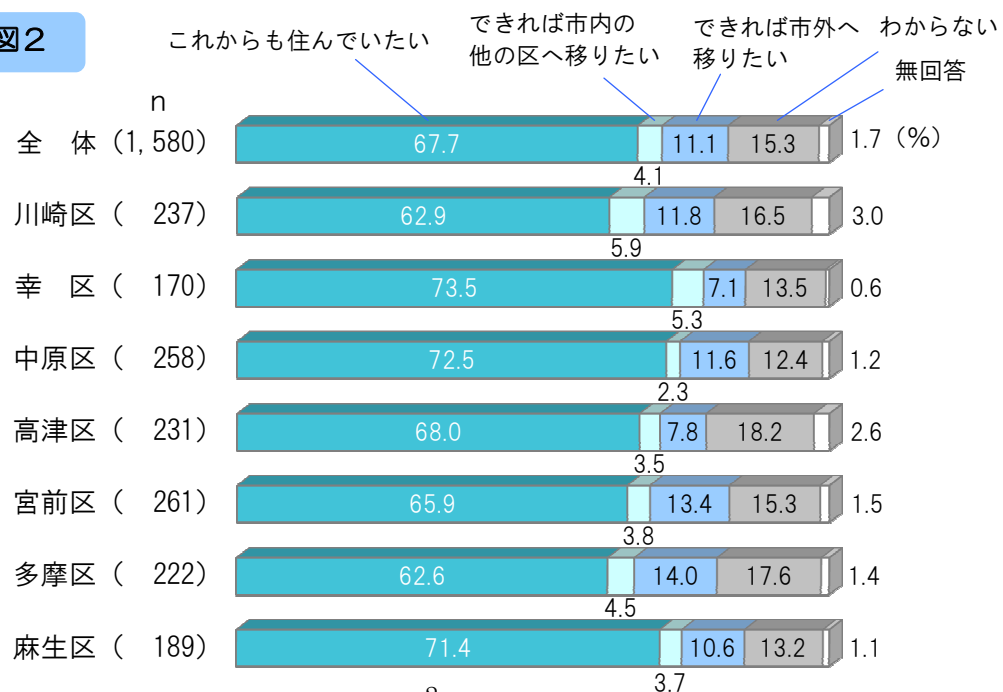
図1



2 定住意向

定住意向を聞いた。居住区別でみると、「これからも住んでいたい」は、幸区（73.5%）、中原区（72.5%）、麻生区（71.4%）で7割を超えている。

図2

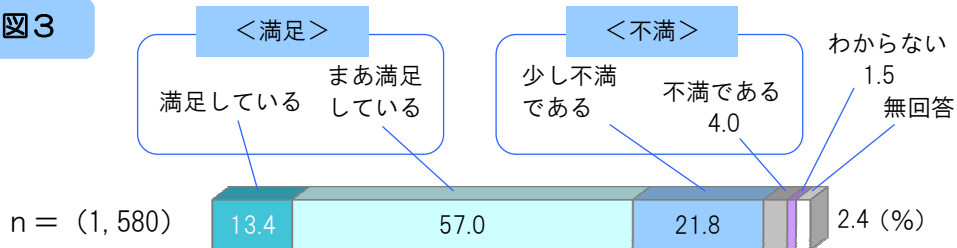


2 生活環境の評価について

1 総合的な生活環境の満足度

生活環境の評価について、総合的な満足度を聞いた。「満足している」(13.4%)と「まあ満足している」(57.0%)を合わせた<満足>は7割を超えている。一方、「少し不満である」(21.8%)と「不満である」(4.0%)を合わせた<不満>は2割半ばとなっている。

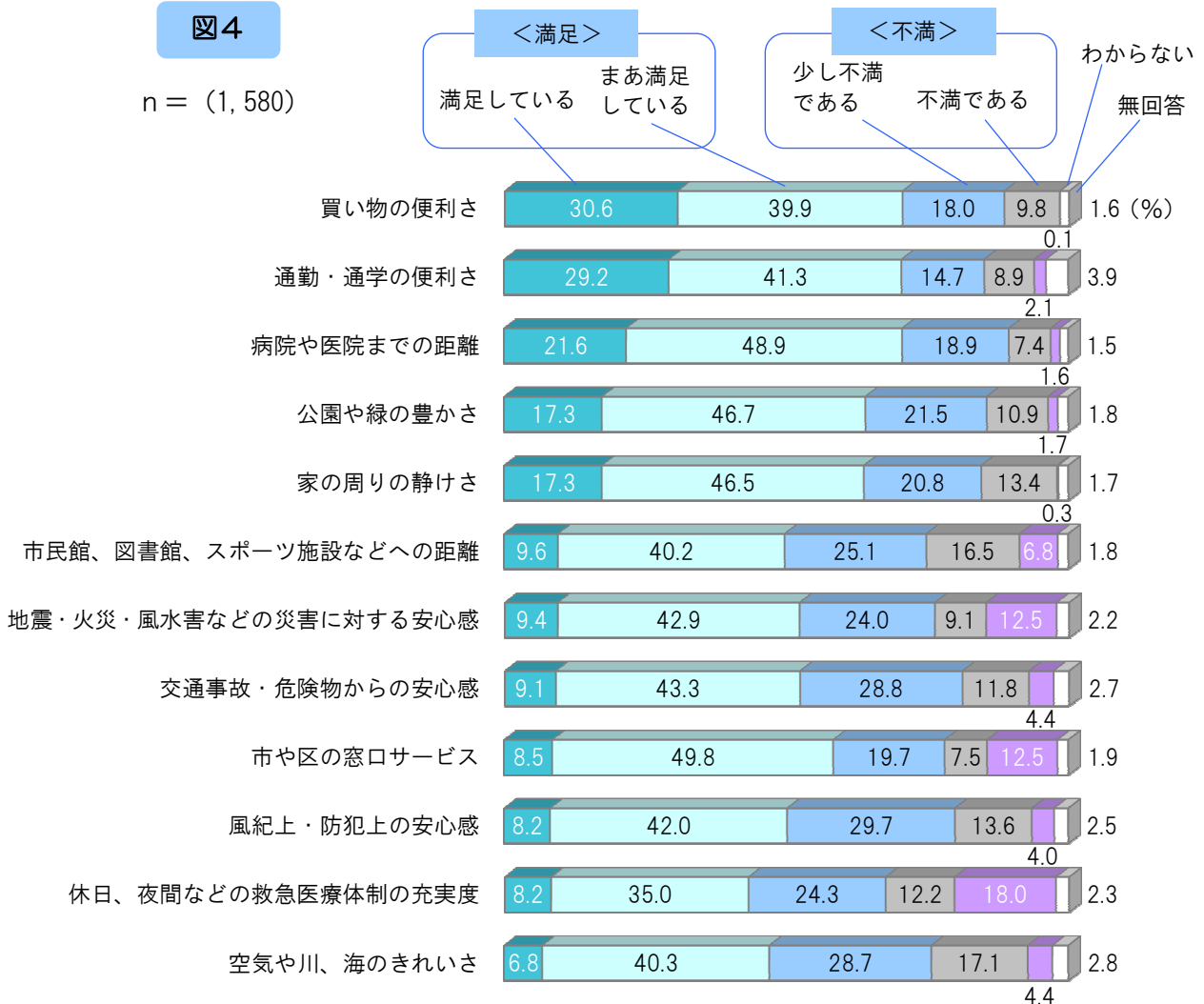
図3



2 生活環境の満足度

生活環境の評価について、各項目の満足度を聞いた。「満足している」と「まあ満足している」を合わせた<満足>が高いものは「買い物の便利さ」(70.5%)、「通勤・通学の便利さ」(70.5%)、「病院や医院までの距離」(70.5%)が7割を超えている。

図4



3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

関心を持っていることを聞いた。「健康」(66.8%)が6割半ばと最も高くなっている。次いで「老後の生活」(49.5%)、「家族」(48.2%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(43.6%)、「お金・財産」(41.6%)、という順になっている。年代別でみると、「健康」は40歳代～70歳以上、「お金・財産」は20歳代～40歳代で高くなっている。

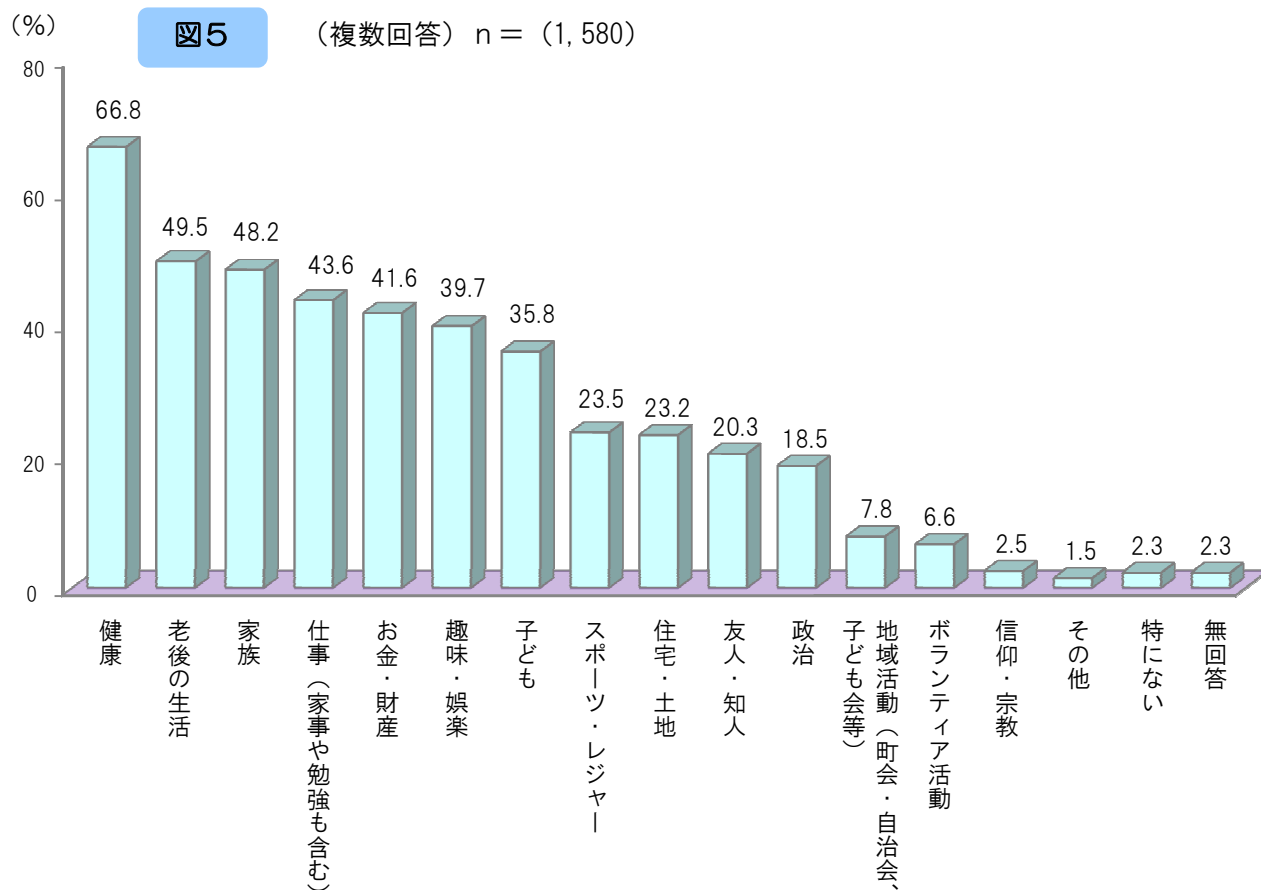


表1 (複数回答、上位10項目)

(%)

	調査数	健康	老後の生活	家族	仕事(家事や勉強も含む)	お金・財産	趣味・娯楽	子ども	スポーツ・レジャー	住宅・土地	友人・知人
全体	1,580	66.8	49.5	48.2	43.6	41.6	39.7	35.8	23.5	23.2	20.3
20歳代	179	44.7	14.5	43.0	62.6	58.1	52.5	30.2	33.5	30.2	33.5
30歳代	329	52.6	24.3	53.2	58.4	50.2	40.4	57.1	27.7	30.1	24.0
40歳代	290	72.1	48.6	60.7	61.4	49.0	39.7	49.0	25.9	26.6	15.9
50歳代	214	75.2	68.7	46.7	43.5	41.1	41.1	28.0	22.0	22.4	15.9
60歳代	292	78.8	73.6	42.5	21.2	28.4	34.2	21.2	17.8	14.0	13.4
70歳以上	206	75.7	67.0	39.3	8.7	24.3	34.0	15.5	13.6	14.1	23.8

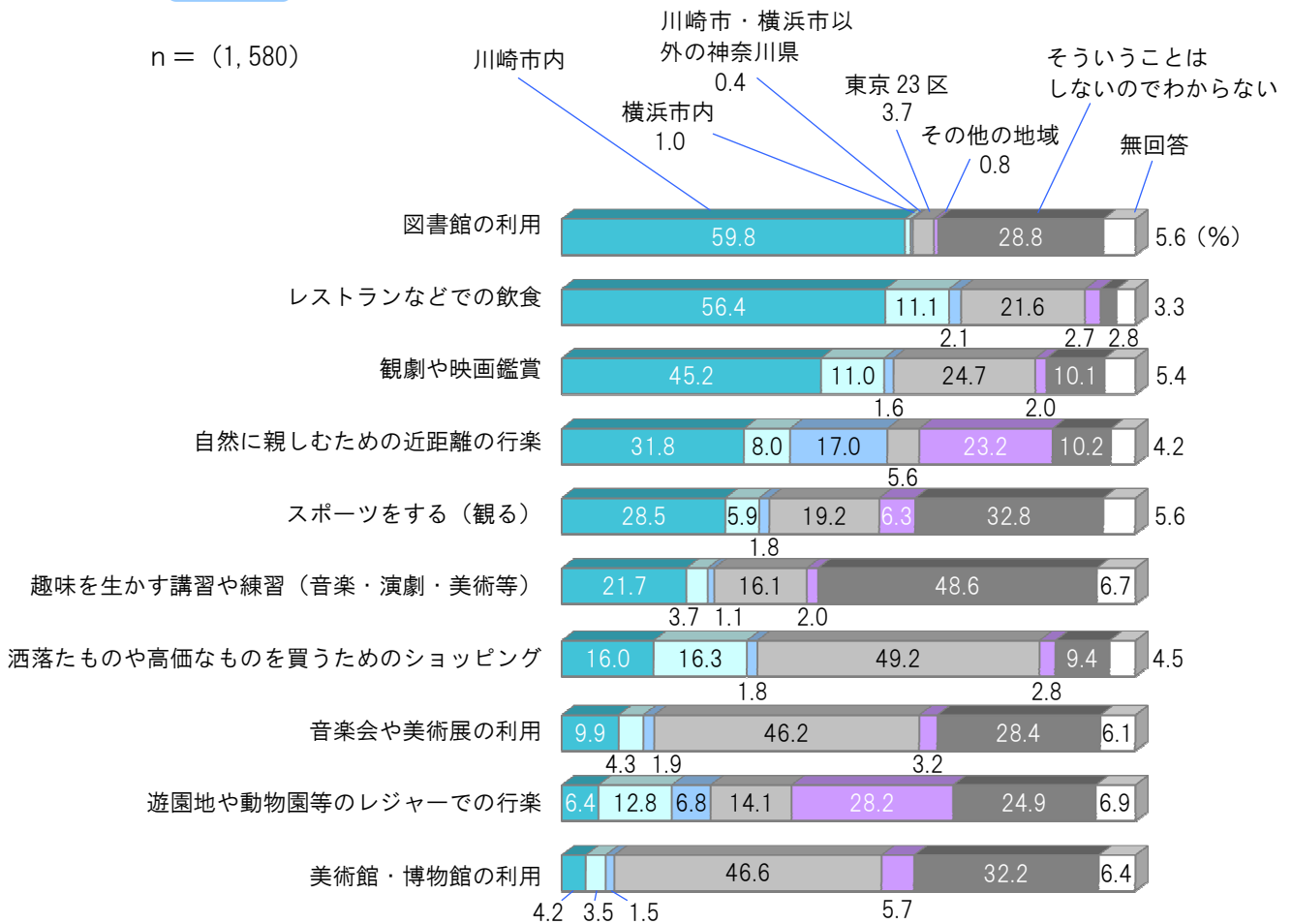
2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

行楽や文化施設の利用、ショッピングの場所などを聞いた。『川崎市内』の利用率が高い項目は、「図書館の利用」(59.8%)、「レストランなどでの飲食」(56.4%)、「観劇や映画鑑賞」(45.2%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(31.8%)となっている。

一方、『東京23区』の利用率が高い項目は、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(49.2%)、「美術館・博物館の利用」(46.6%)、「音楽会や美術展の利用」(46.2%)となっている。

図6

n = (1,580)



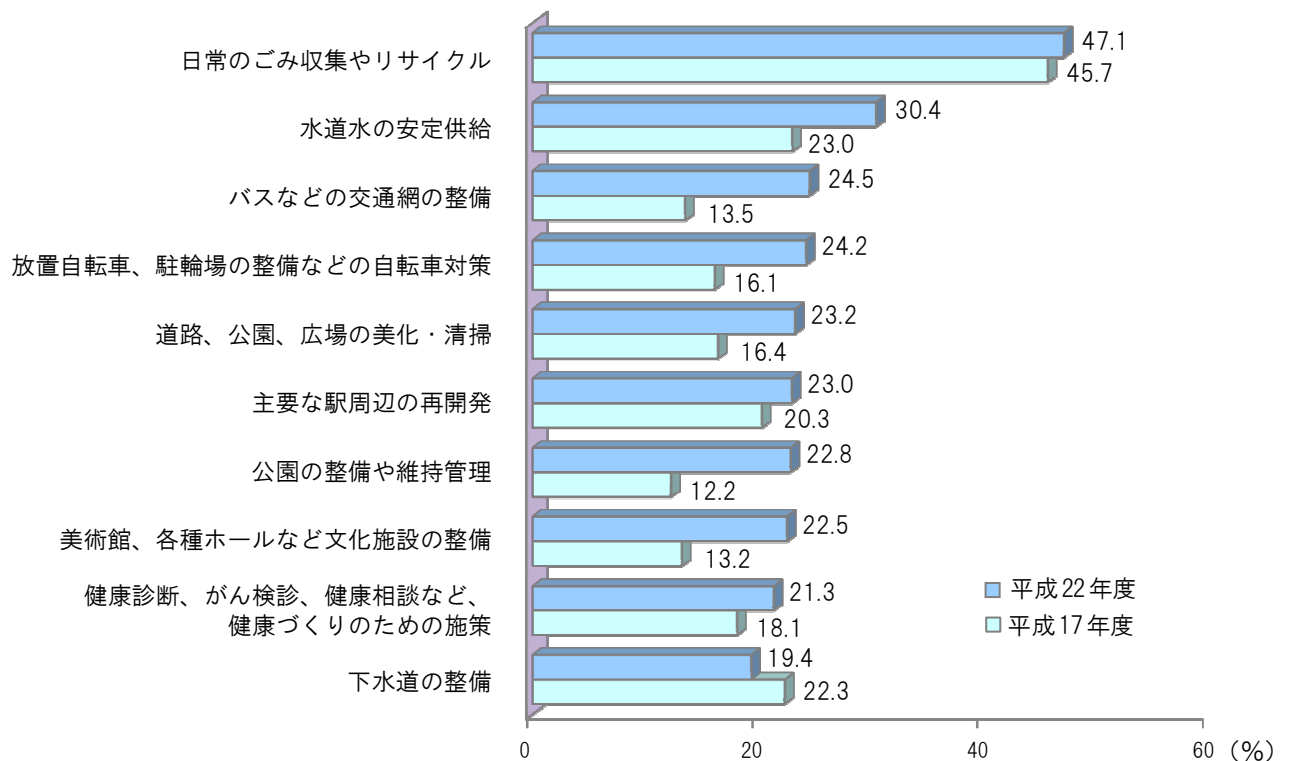
4 市政に対する評価と要望について

1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

市政の仕事でよくやっていると思うことを聞いた。「日常のごみ収集やリサイクル」(47.1%)は4割半ばと高く、次いで「水道水の安定供給」(30.4%)、「バスなどの交通網の整備」(24.5%)となっている。

5年前と比較してみると、全体的に増加した項目が多く、特に「バスなどの交通網の整備」(24.5%)は11.0ポイント、「公園の整備や維持管理」(22.8%)は10.6ポイント、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(22.5%)は9.3ポイント増加している。

図7 (複数回答、上位10項目、平成17年度との比較) n = (1,580)

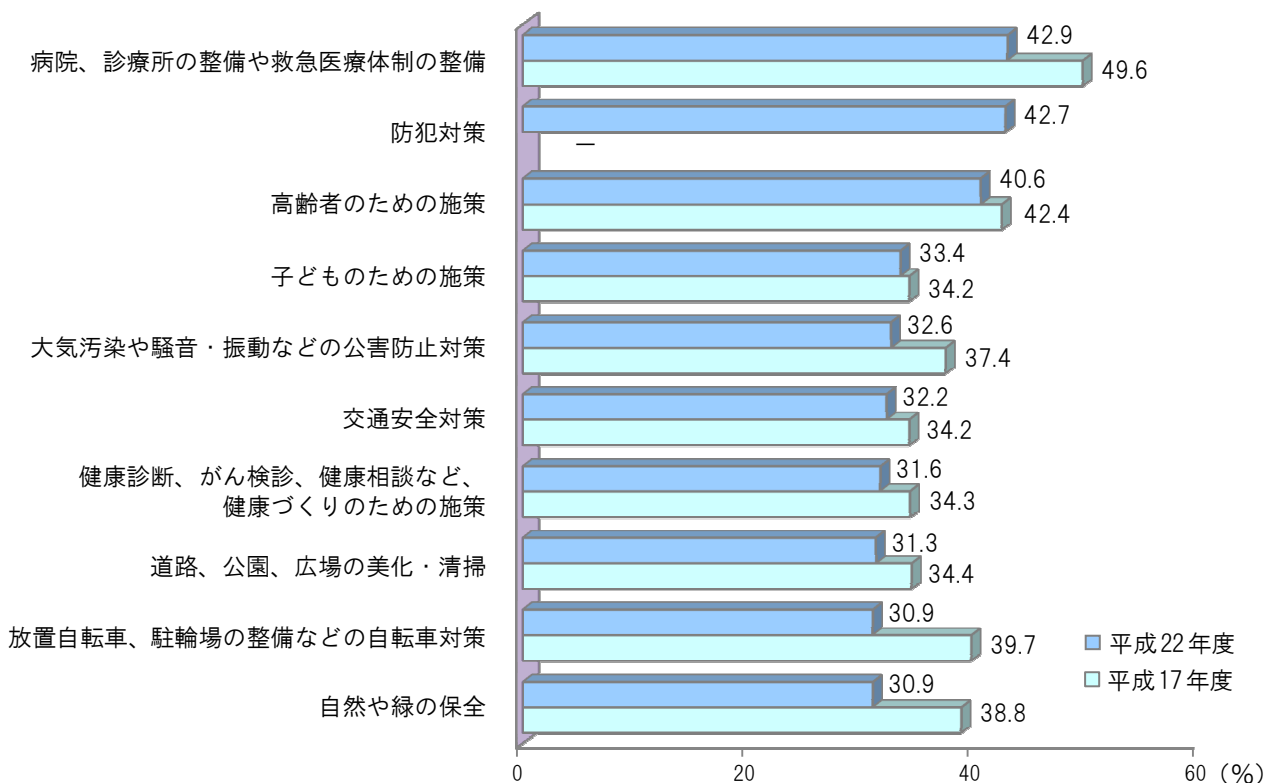


2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことを聞いた。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(42.9%)で4割半ば、「防犯対策」(42.7%)も4割半ばを超えて高い。

5年前と比較してみると、全体的に減少している。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(42.9%)は6.7ポイント、「高齢者のための施策」(40.6%)は1.8ポイント、「子どものための施策」(33.4%)は0.8ポイント減少している。

図8 (複数回答、上位10項目、平成17年度との比較) n = (1,580)



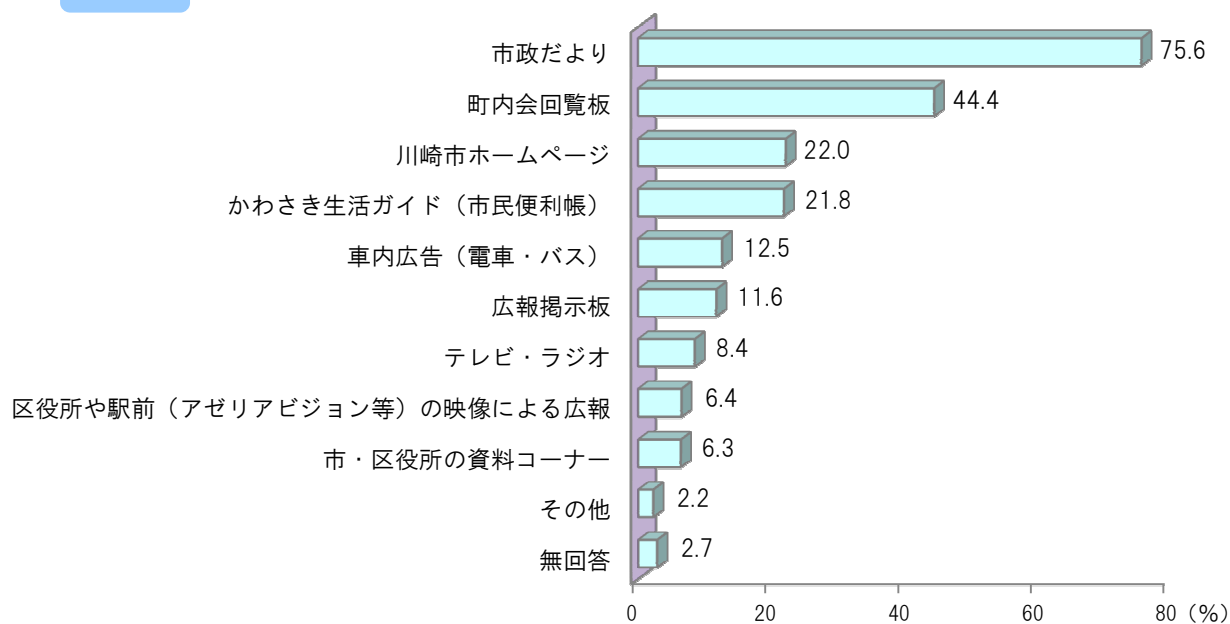
注 「防犯対策」は平成18年度調査からの選択肢であるため、グラフでは平成17年度調査に“-”で表示してある。

5 川崎市ホームページからの情報提供について

1 市からのお知らせや情報の入手手段

市からのお知らせや情報をどのような手段で入手しているか聞いた。「市政だより」(75.6%)が7割半ばと最も高くなっている。次いで、「町内会回覧板」(44.4%)、「川崎市ホームページ」(22.0%)、「かわさき生活ガイド(市民便利帳)」(21.8%)の順が続いている。

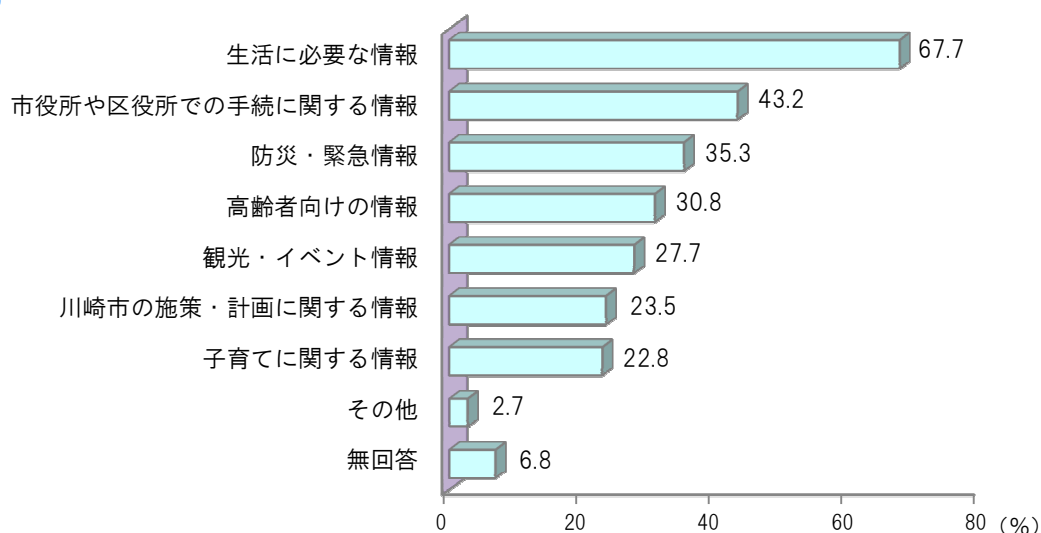
図9 (複数回答) n = (1,580)



2 市からの情報で、充実してほしいもの

市からの情報で、充実してほしいものを聞いた。「生活に必要な情報」(67.7%)が約7割と最も高くなっている。次いで、「市役所や区役所での手続きに関する情報」(43.2%)、「防災・緊急情報」(35.3%)、「高齢者向けの情報」(30.8%)の順が続いている。

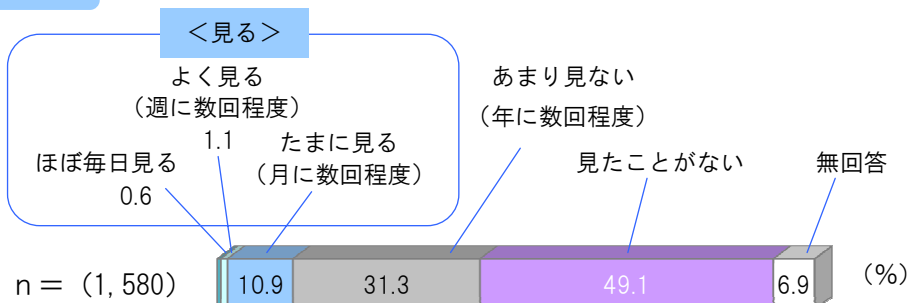
図10 (複数回答) n = (1,580)



3 市のホームページの閲覧頻度

どの程度の頻度で市のホームページを閲覧するか聞いた。「ほぼ毎日見る」(0.6%)と「よく見る(週に数回程度)」(1.1%)と「たまに見る(月に数回程度)」(10.9%)を合わせた<見る>は1割半ばとなっている。一方、「見たことがない」(49.1%)は約5割となっている。

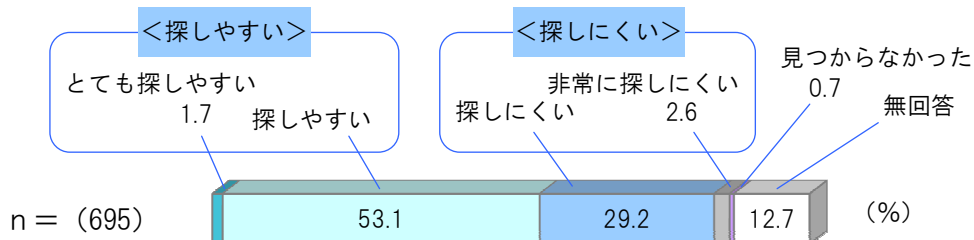
図11



4 市のホームページでの情報の探しやすさ

市のホームページで必要な情報は探しやすいか聞いた。「とても探しやすい」(1.7%)と「探しやすい」(53.1%)を合わせた<探しやすい>は5割半ばとなっている。一方、「探しやすい」(29.2%)と「非常に探しやすい」(2.6%)を合わせた<探しやすい>は3割を超えている。

図12

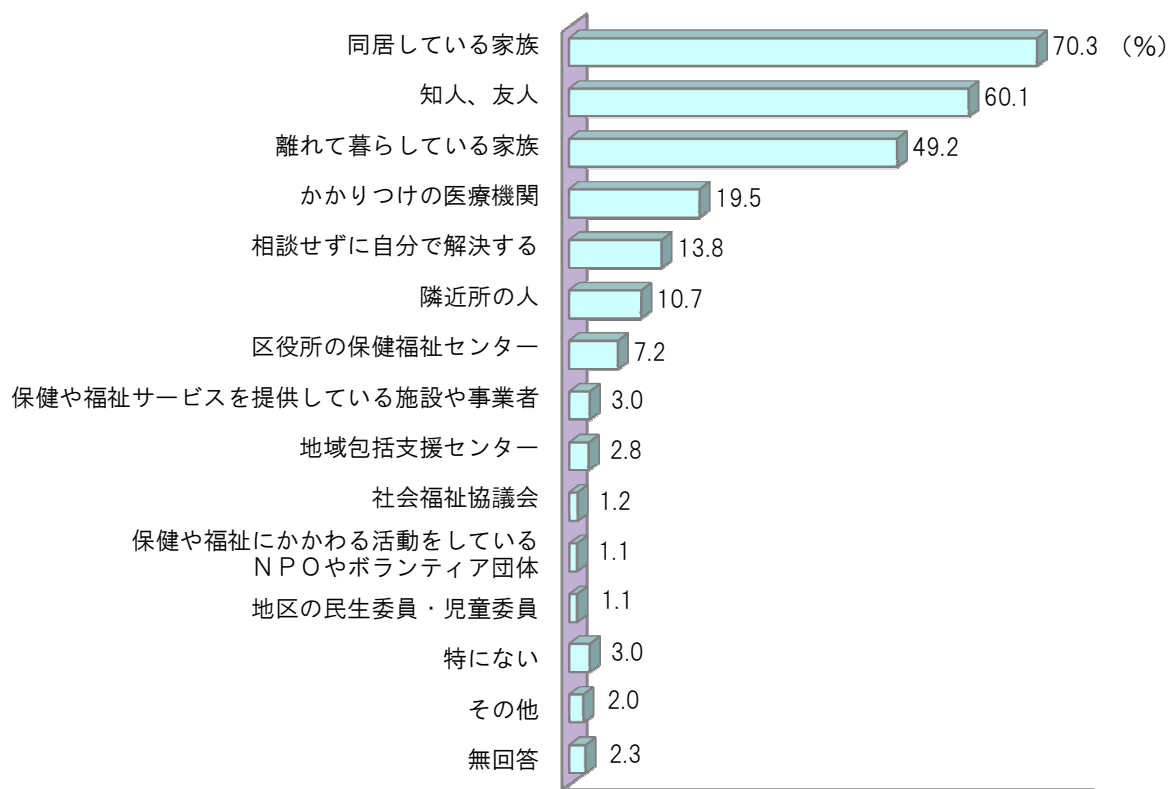


6 地域福祉について

1 心配なことが起きたときの相談先

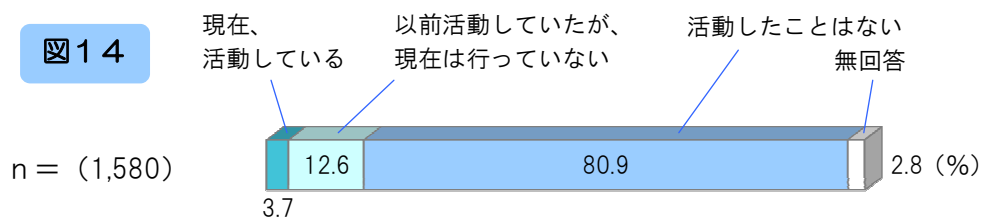
日々の生活をする上で、心配なことが起きたときの相談先を聞いた。「同居している家族」(70.3%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「知人、友人」(60.1%)、「離れて暮らしている家族」(49.2%)、「かかりつけの医療機関」(19.5%)と続いている。

図13 (複数回答) n = (1,580)



2 保健や福祉に関するボランティアについての活動経験

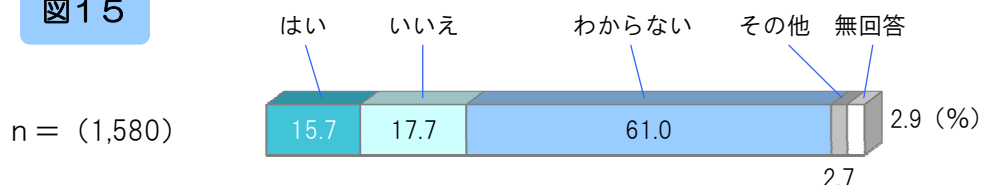
健康づくりや福祉施設におけるお手伝いなど、保健や福祉に関するボランティアについて活動した経験があるか聞いた。「活動したことはない」(80.9%)が8割を超えて最も高くなっている。次いで「以前活動していたが、現在は行っていない」(12.6%)、「現在、活動している」(3.7%)と続いている。



3 「介護支援ボランティア・ポイント制度」導入後の参加意識

「介護支援ボランティア・ポイント制度」を導入した場合、この制度のボランティアとして活動に参加するか聞いた。「わからない」(61.0%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで「いいえ」(17.7%)、「はい」(15.7%)と続いている。

図15

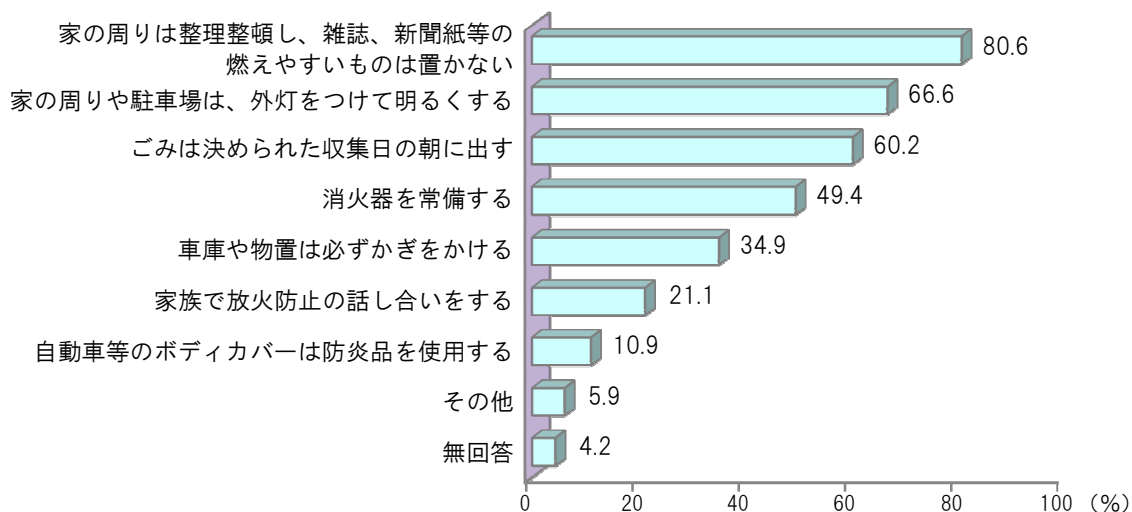


7 住宅防火対策について

1 大切だと思う放火防止対策

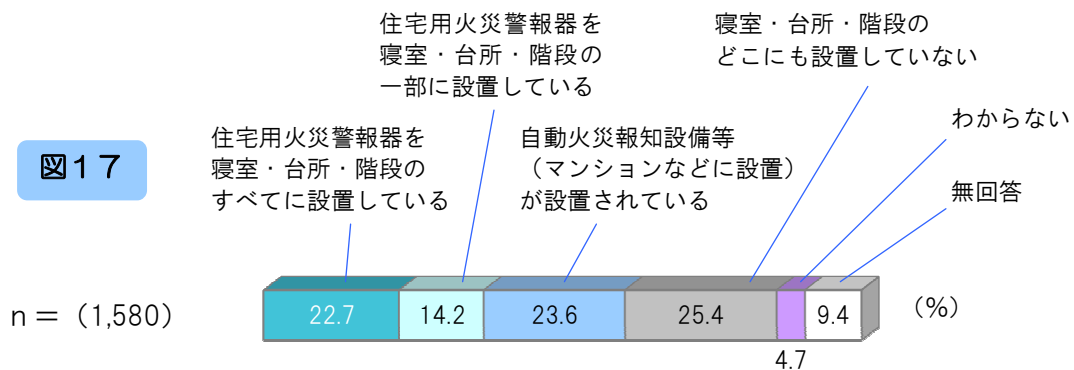
放火防止対策で何が大切だと思うか聞いた。「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」(80.6%)が8割を超えて最も高くなっている。次いで「家の周りや駐車場は、外灯をつけて明るくする」(66.6%)、「ごみは決められた収集日の朝に出す」(60.2%)、「消火器を常備する」(49.4%)と続いている。

図16 (複数回答) n = (1,580)



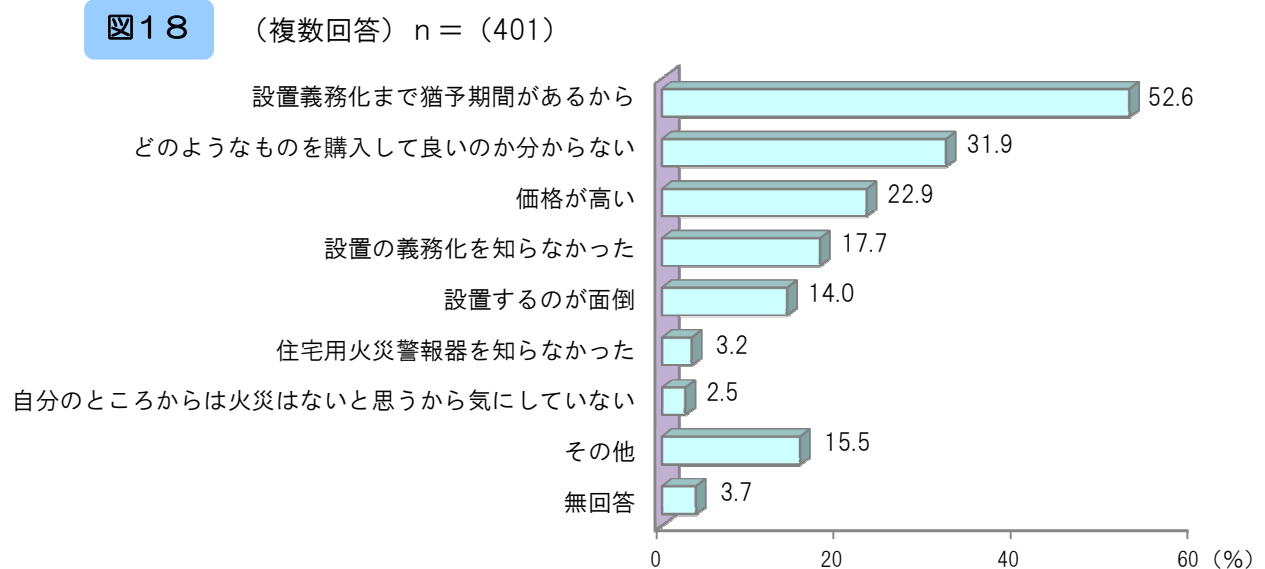
2 住宅用火災警報器の設置状況

住宅用火災警報器を設置しているか聞いた。「寝室・台所・階段のどこにも設置していない」(25.4%)が2割半ばで最も高くなっている。次いで「自動火災報知設備等(マンションなどに設置)が設置されている」(23.6%)、「住宅用火災警報器を寝室・台所・階段のすべてに設置している」(22.7%)、「住宅用火災警報器を寝室・台所・階段の一部に設置している」(14.2%)と続いている。



3 住宅用火災警報器を設置していない理由

住宅用火災警報器を設置していない理由を聞いた。「設置義務化まで猶予期間があるから」(52.6%)が5割半ばと最も高くなっている。次いで「どのようなものを購入して良いのか分からない」(31.9%)、「価格が高い」(22.9%)、「設置の義務化を知らなかった」(17.7%)と続いている。



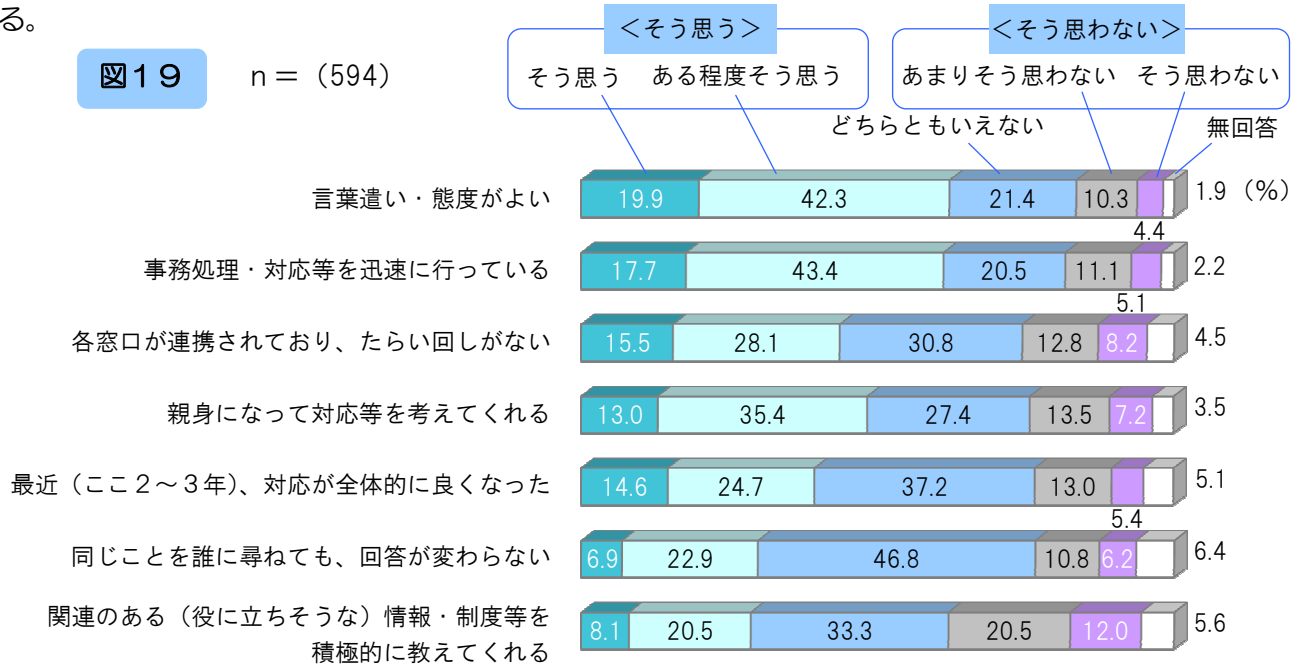
8 市職員に対する市民意識について

1 市職員による市民対応

市職員による市民対応等について、どのように感じているか聞いた。「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた<そう思う>は、「言葉遣い・態度がよい」「事務処理・対応等を迅速に行っている」で6割を超えている。「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた<そう思わない>は、「関連のある（役に立ちそうな）情報・制度等を積極的に教えてくれる」で3割半ばとなっている。

図19

n = (594)

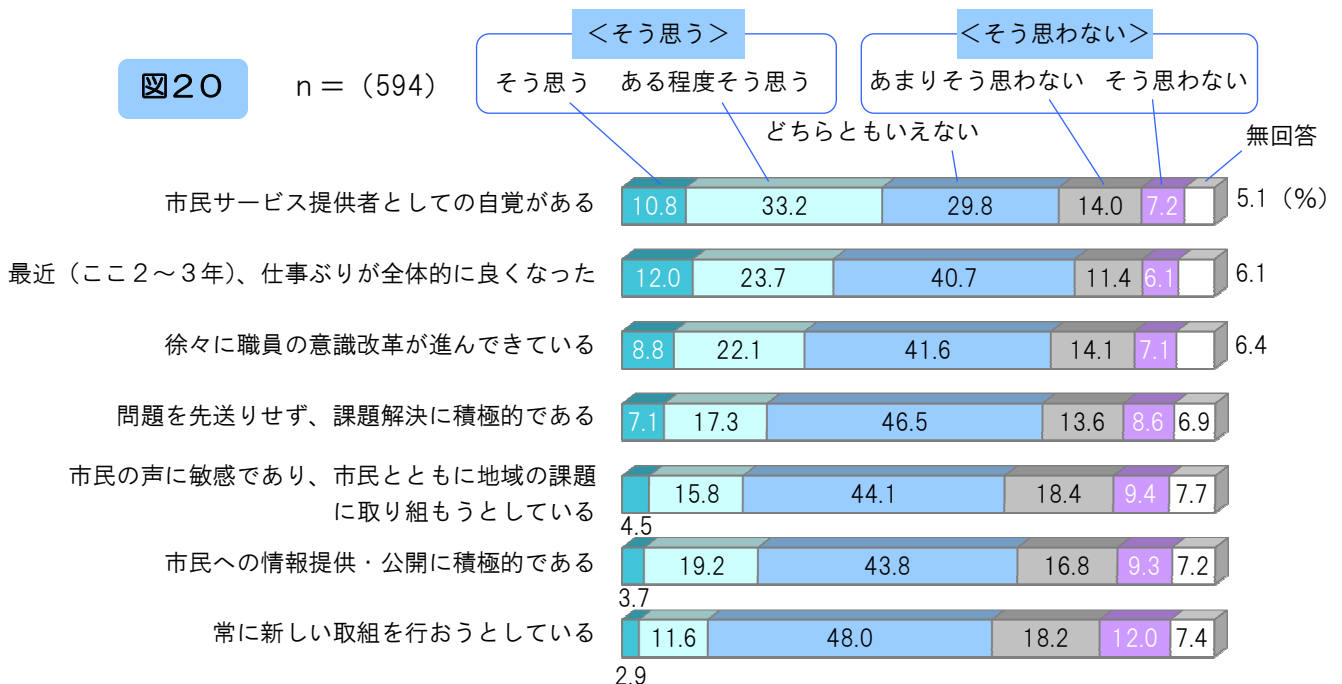


2 市職員あるいは職員の仕事ぶり

市職員あるいは職員の仕事ぶりについて、どのような印象を持っているか聞いた。「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた<そう思う>は、「市民サービス提供者としての自覚がある」で4割半ばとなっている。「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた<そう思わない>は、「常に新しい取組を行おうとしている」で3割を超えている。

図20

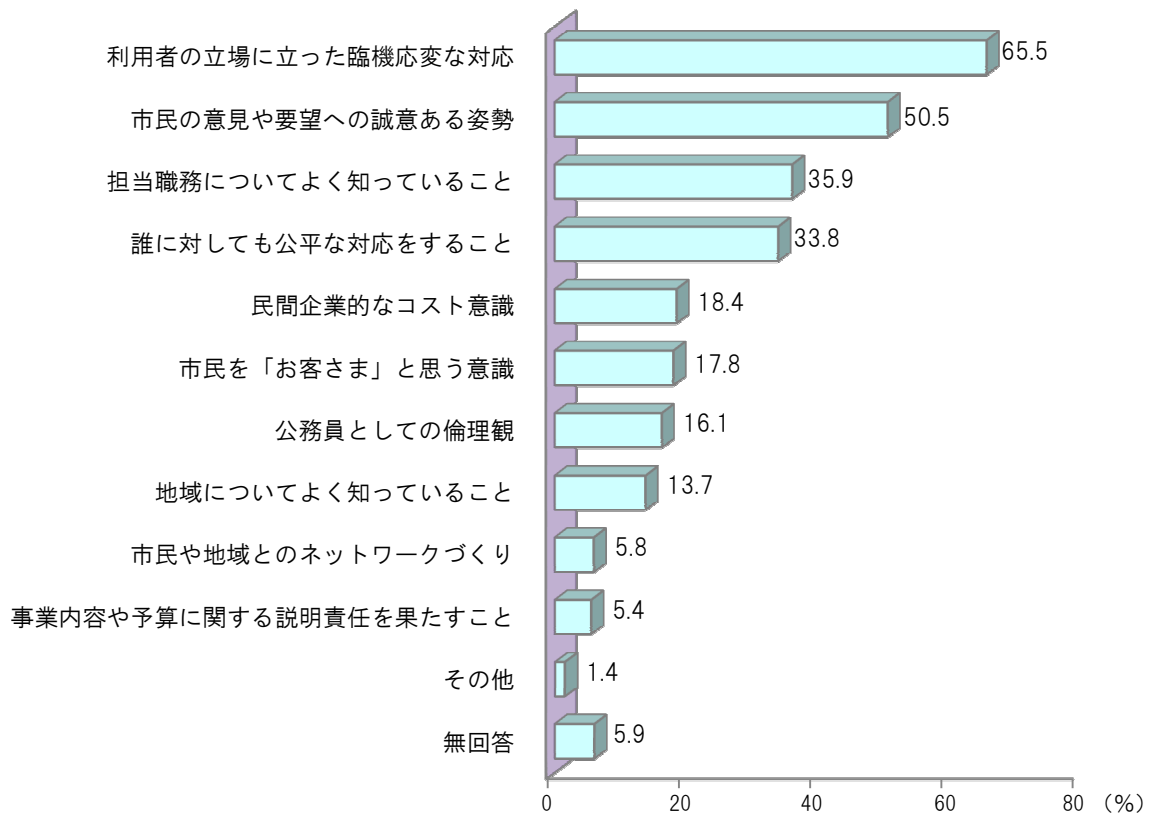
n = (594)



3 市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの

市職員に求めるものとして、特に重要であると思うものを聞いた。「利用者の立場に立った臨機応変な対応」(65.5%)が6割半ばと最も高くなっている。次いで、「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」(50.5%)、「担当職務についてよく知っていること」(35.9%)、「誰に対しても公平な対応をすること」(33.8%)と続いている。

図21 (複数回答) n = (1,580)

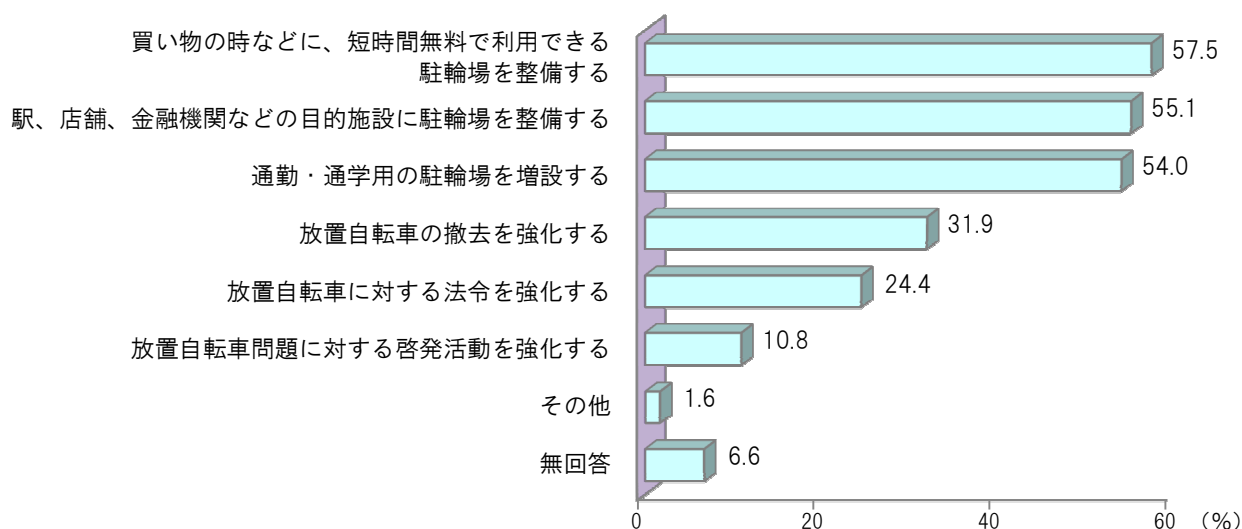


9 自転車対策について

1 重要だと思う放置自転車対策

重要だと思う放置自転車対策を聞いた。「買い物の時などに、短時間無料で利用できる駐輪場を整備する」(57.5%)が5割半ばと最も高くなっている。次いで、「駅、店舗、金融機関などの目的施設に駐輪場を整備する」(55.1%)、「通勤・通学用の駐輪場を増設する」(54.0%)、「放置自転車の撤去を強化する」(31.9%)と続いている。

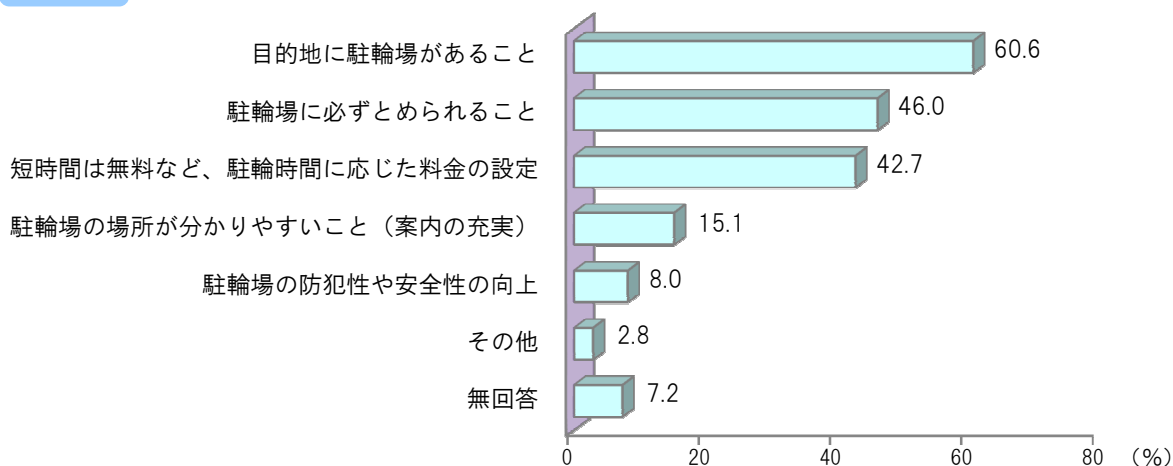
図22 (複数回答) n = (1,580)



2 駐輪場利用の促進

路上の放置を減らし、駐輪場の利用を促進するために重要と考えることを聞いた。「目的地に駐輪場があること」(60.6%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「駐輪場に必ずとめられること」(46.0%)、「短時間は無料など、駐輪時間に応じた料金の設定」(42.7%)、「駐輪場の場所が分かりやすいこと(案内の充実)」(15.1%)と続いている。

図23 (複数回答) n = (1,580)



平成22年度第2回かわさき市民アンケート概要版
平成23年2月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当
〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2293（直通）

FAX 044-200-3919